

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 地域高規格道路 有明海沿岸道路 一般国道208号 <small>おおむた たかた どうろ たかたやまと おおかわ</small> 大牟田高田道路、高田大和バイパス、大川バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局																								
起終点 自：福岡県大牟田市新港町 至：福岡県大川市大野島	延長 27.5km																									
事業概要 国道208号大牟田高田道路、高田大和バイパス、大川バイパスは、地域高規格道路である有明海沿岸道路の一部を担う延長27.5kmの道路であり、三池港や佐賀空港といった広域交通拠点と沿線都市群とを連携し、また、現道の交通混雑の緩和や交通安全の確保等に寄与するものである。																										
S63年度事業化 H10年度都市計画決定 H2年度用地着手 H12年度工事着手																										
全体事業費 2,010億円 事業進捗率 67% 供用済延長 14.2km																										
計画交通量 10,500～23,200台/日																										
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B / C</td> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">基準年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1.2</td> <td style="text-align: center;">407/2,142億円</td> <td style="text-align: center;">825/2,647億円</td> <td style="text-align: center;">平成22年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">(事業費：379/2,063億円)</td> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益：590/2089億円)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2.0</td> <td style="text-align: center;">(維持管理費：28/79億円)</td> <td style="text-align: center;">(走行費用減少便益：143/369億円)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">(交通事故減少便益：92/189億円)</td> <td></td> </tr> </table>	B / C	総費用	総便益	基準年	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(事業全体)	1.2	407/2,142億円	825/2,647億円	平成22年	(残事業)	(事業費：379/2,063億円)	(走行時間短縮便益：590/2089億円)		2.0	(維持管理費：28/79億円)	(走行費用減少便益：143/369億円)				(交通事故減少便益：92/189億円)		感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.2(交通量+10%) B/C=1.9(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.9(事業費+10%) B/C=2.2(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.9(事業期間+20%) B/C=2.2(事業期間-20%)
B / C	総費用	総便益	基準年																							
(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(事業全体)																							
1.2	407/2,142億円	825/2,647億円	平成22年																							
(残事業)	(事業費：379/2,063億円)	(走行時間短縮便益：590/2089億円)																								
2.0	(維持管理費：28/79億円)	(走行費用減少便益：143/369億円)																								
		(交通事故減少便益：92/189億円)																								
事業の効果等 地域間の交流・連携の支援 ・沿線都市間のアクセス向上（大牟田市～大川市間の所要時間：約5分短縮） ・定住自立圏中心市へのアクセス向上（中心市へのアクセスが向上する定住自立圏域人口：約43,000人） 物流効率化の支援 ・地域産業の経済活動の効率化 ・三池港へのアクセス向上（大川市～三池港間の所要時間：約10分短縮） 地域開発計画等の支援 ・開発計画や構想プロジェクトの支援 救急医療活動の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約5分短縮、約51,000人） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約17億円】 交通混雑の緩和 ・交通転換による交通混雑の緩和（国道208号混雑度：1.29(H17) 0.78(H42推計値）） ・所要時間の信頼性の向上による便益【約89億円】 交通安全性の向上 ・交通転換による交通事故の減少（国道208号死傷事故減少件数：159件/年(H42推計値）） は供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）																										
関係する地方公共団体等の意見 大牟田市をはじめとする沿線市長、議会等で構成される有明海沿岸道路建設促進福岡県期成会（会長：大牟田市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年7月）																										
県知事の意見 （事業継続という対応方針（原案）に対し）継続。 有明海沿岸道路は広域的な連携を担う地域高規格道路であり、地域にもたらす整備効果は広域的でかつ大きいため、継続して整備すべきと考える。今回提示された対応方針（原案）は、事業内容を「当面暫定2車線整備」に見直すものであり、福岡県をはじめ関係する自治体の「まちづくり」に対し大きな影響を与えるため、十分な説明と理解が必要である。このことから、事業内容の見直しについて、関係団体に対し十分な協議・調整を行った上で、事業を進めて頂きたい。 完成4車化については、交通需要等について十分な調査・予測を行い、適切な時期に事業を実施するこ																										

と。

事業評価監視委員会の意見
審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成19年度以降、当該路線の部分的暫定供用により並行する国道208号の負担は軽減されたものの、依然として現道の国道208号の交通量は多く、混雑度は1.0を超えている状況にある。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約67%であり、そのうち用地進捗率は約96%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、三池港IC～大牟田IC間(L=1.9km)、大和南IC～徳益IC間(L=3.2km)の平成23年度内の供用を目指し整備を進めており、その他未供用区間の早期供用に向けて整備を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約367億円】
- ・ 公共工事等における新技術活用システム(NETIS)の活用による減【約2億円】
- ・ 建設発生土の利用による減【約1億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。